

Title	中支考古學調査班柴田班報告
Sub Title	
Author	柴田, 常恵(Shibata, Joe)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.17, No.2 (1938. 11) ,p.177(323)- 179(325)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報 支那學術調査團考古學班報告
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0177

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

豫報」として、史學に發表の豫定。

五、今回調査旅行の研究報告は遺物當局と協議の上、何等かの形式にて塾より發表を行ふ。

中支考古學調査班柴田班報告

柴田常惠

今回支那の考古學的調査と並に皇軍慰問の命を受けて占領地に
向け、五月十一日東京出發、七月十九往復七十日にして歸京した
り。依て復命す。

一、目的

支那に於ける考古學的調査、並に出征軍人の慰問。

一、人員

班長 講師 柴田常惠
班員 學生 清水潤三

五月十一日 東京發
同 十四日 上海著
同 十七日 上海發、南京著
同 廿六日 南京發、蕪湖著
同 廿八日 蕪湖發、灣沚鎮著
同 廿九日 灣沚鎮發、南京歸還
同 卅一日 棲霞山踏査

彙報

六月二日 南京發、鎮江著
同 四日 鎮江發、蘇州著
同 七日 蘇州發、上海歸還
同 九日 上海發、杭州著
同 十四日 杭州發、上海歸還
同 十八日 上海發
同 十九日 青島著
同 二十日 青島發、濟南著
同 廿二日 濟南發、天津著
同 廿三日 天津發、北京著
七月四日 北京發
同 五日 大同著
同 日 大同發、雲崗鎮著
同 六日 雲崗鎮發、大同歸還
同 七日 大同發、北京歸還
同 八日 北京發(天津、奉天を経て)
同 九日 大連著
同 十六日 大連發
同 十九日 東京歸還

一、踏査

右記の如き日程を以て踏査せり。なほ松本班とは五月十一日東京出發以來、南京到着迄行動を共にし、南京に於いては大體別個に行動し、五月三十一日棲霞山附近の踏査には同行し、又南京よ

(三三)

り鎮江、蘇州を経て上海に歸還する間は同班員西岡秀雄を臨時本班に加へ、更に上海に於て合同の上、六月九日共に杭州に赴き、六月十四日同地に於て分離せり。

大山班とは六月二十三日北京に於て會合、先に同方面に於て踏査を實行せられし關係上、種々の便宜を與へられたり。

本班の踏査個所の主要なるもの次の如し。

南 京

國立中央研究院、古物保存所、陶器試驗所、北極閣、明故宮、大鐘亭、清涼山小九華寺、同清涼寺、同善慶寺、鼓樓、朝天宮、永寧庵、定湘王行宮舊址(廟)、二郎廟、天文台、明孝陵、中山陵、雞鳴寺

燕 湖

東嶽廟、白衣寺、孔子廟、北廣濟寺、市中石敢當の調査

灣 沚 鎮

陶公之墓(宋代)

棲 霞 山

棲霞寺、棲霞山附近の六朝時代の墳墓

鎮 江

甘露寺、定慧寺、金山寺、市中の石敢當

蘇 州

虎阜寺、寒山寺、戒幢律寺、城隍廟、元妙觀、西園、留園、報恩寺、開元寺、瑞光寺、孔子寺、滄浪亭、可園、獅子林(庭園)、兒童圖書館、蘇州美術專門學校、双塔寺、定慧寺

杭 州

法雲寺、雲林寺、法鏡寺、法淨寺、法喜寺、昭慶寺、兵飛廟及その墓淨慈寺、雷峰塔址、保俶塔及附近石佛、錢王廟、岳王廟、廣福廟、救命王廟、大尉廟、官巷口の日本鐘、大歲廟、城隍廟、浙口流通圖書館、東嶽廟、市中の石敢當

上 海

上海博物院、交通大學

濟 南

千佛山、同所附近の石塔、北極廟、濟南圖書館、濟南博物館

北 京

永安萬壽塔及寺址、天寧寺、白雲觀、北海極樂世界、東嶽廟、天壇、市中の石敢當、萬壽山、故宮博物院、歷史博物館、古物陳列所、雍和宮

大 同

上華嚴寺、下華嚴寺、玉帝廟、九龍壁、大同市内の土器出土地の調査

雲 崗 鎮

雲崗石佛、雲崗鎮出土土器片の調査

天 津

南開大學

大連、旅順、金州

歸途大連通過の際、左記の如く見學、調査を行へり。

大連 綠山貝塚

旅順 旅順關東州博物館、營城子古墳(漢代)

金州 三宅俊成氏蒐集の關東州出土石器時代遺物、岩間德也氏藏

殷墟出土品

豫め本班は地理的にも、種類に於ても廣範圍に互る考古學的觀察を目標とし、一ヶ所の調査に促はれることなく、大勢を洞察し、斯學の將來に資せんと欲せり。その意味に於て若干の矚目せる標本、寫眞、拓本を採集或は購入して持ち歸れるも、地域を中支より北支に及ぼし、比較的廣き地域を踏査するに至れり。その結果各地に十分なる時日を有せざりし爲、割愛せる所も多きは止むを得ざる所なり。併し乍ら時期恰も徐州作戰の末期に當り、漢口作戰の開始以前たりし爲、踏査地方は概ね平靜にして障害を受くること少く、加ふるに軍當局の理解と援助とにより暑氣激しく、又雨期に當り、最惡の氣候の中にありしもよく所期の目的を達成し得たりと信ず。

又各地踏査の間に於て左の如き事業をなしたり。

一、南京に在りては南京〇〇〇〇宣撫班の依頼により知識の不足より破壊を免れしめんが爲各名所、舊蹟に建つべき揭示の原稿を起草、手交せり。

一、同じく南京に於て松本班と連名にて明故宮東長安門破壊工事の中止方を軍當局に懇請し、その湮滅を免れしめたり。

一、五月二十八日蕪湖自治委員會に於て同地宣撫班長の請により、支那人幹部に對して日支兩國間の文化交渉に就き講演をなし、宣撫工作多大の効果を收めたりと云ふ。

一、六月一日南京明故宮に於て同所に駐屯せる〇部隊將士に對し明故宮の概略に就き講演を行ひたり。

一、慰問

出征軍人の慰問としては、各地に於て所在部隊を訪問慰問せるは勿論、列車内、我は踏査中に邂逅せる軍人に對し、出來得る限り、慰問に努力せり。その主なるもの、及び本塾關係者を舉ぐれば次の如し。

一、上海に於ては數回に互り、〇部隊本部を慰問せり。

一、五月十六日上海に於て〇〇部隊を慰問せり。

一、南京に在りては數回に互り〇〇兵站本部を訪れ、慰問せり。

一、五月二十八日蕪湖に於て〇〇部隊經理部を慰問せり。

一、五月二十八日灣沚鎮に於て〇〇部隊の〇〇部隊本部を慰問せり。

一、六月十日杭州に於て〇〇部隊本部を慰問せり。

一、六月二十七日北京に於て〇〇部隊本隊を慰問せり。

一、七月五日大同に於て〇〇兵團本部を慰問せり。

一、七月五日雲崗鎮に於て〇〇部隊〇〇隊の有川少尉以下を慰問せり。

本塾關係者としては

一、五月十六日上海に於て本塾教員西谷謙堂少尉を慰問せり。

一、五月二十二日南京に於て塾員山岸少尉を慰問せり。

一、五月二十八日灣沚鎮に於て塾員山岸少尉を慰問せり。

一、六月二十一日濟南に於て塾員菅野信一軍醫少尉鈴木三郎見習士官を慰問せり。

中支考古學調査班松本班報告